



チエコペットクリニック
院長
(高岡市)
沼本 千栄子

地球上には多種多様な生物がいて、人類はこれらと共存しています。その中に小さくて不思議な生命体があります。1930年代に電子顕微鏡で観察が可能になったウイルスです。生命体という表現には議論が分かれます。「ウイルスは生物ではない」または「生物と非生物の中間」という論争です。生きているように生きていない？

ウイルスって何だろう？



コロナ発生時の防護服。現在でも犬猫などにSFTS感染の疑いがあれば着用する

2019年の新型コロナウイルス発生を機に、私たちはウイルスという言葉に敏感になりましたが、ウイルス感染とはいったい何でしょう。近年は、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスが話題です。SFTSウイルス保有のマダニにかまれた人や犬猫

などの動物が感染し発症します。人や動物は、生命を維持し繁殖するために他の生物から栄養を摂取して子孫を残しています。その過程で再生や遺伝子情報をやり取りするためのDNAとRNAが細胞内に存在します。しかしウイルスは不思議なことにDNAまたは

弱点学び感染減らす

RNAのどちらかしか持つておらず、自己増殖ができないのです。そのため人や動物の細胞に入り込み、DNAまたはRNAを勝手に操作して増殖し、細胞外に出て次のターゲットに移ります。動物の体が別の生命体に操られるSF映画のような世界が、現実に行われているのです。

ウイルス感染とは、ウイルス側から見れば自らが増殖し続けるための手段であり、その相手を探しながら地球上に存在しているという他にありません。

また私たちの細胞や細菌は細胞膜という自らを守る壁を持っていますが、ウイルスにはありません。

その代わりにたんぱく質の殻や、エンベロープという脂質で構成されている薄い膜のようなものを持っています。

SFTSウイルスはエンベロープを持っており、70〜90%のエタノールや0.5%の次亜塩素酸の消毒により活性を失います。ウイルスはそれぞれ形や特性が違いため、人にとっては恐ろしいものであっても、ほかの生物には害がなく、ただのウイルスの運搬役となっていることもあります。

ウイルスの弱点を学ぶことは、とても大切です。感染を減らすには、清潔な生活を心がけ、ウイルスに打ち勝つだけの免疫力を備える方法を見つけなければなりません。

毎月第1土曜掲載